



聴覚障害者（特に難聴者・中途失聴者）を対象としたコミュニケーション支援について

保健福祉学部 コミュニケーション障害学科

講師 長谷川 純（はせがわ じゅん）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス

専門分野： 言語聴覚障害学

キーワード： コミュニケーション障害、聴覚障害、コミュニケーション支援

●研究内容

聴覚障害者のなかでも、特に、手話を中心的なコミュニケーション手段として用いない方々を支援する方法を研究しています。

1 「要約筆記」の技術についての研究

聴覚障害者の方々を対象とした情報保障の方法のひとつとして要約筆記があります。

聴覚障害のある方が講演会や講習会に参加したいと思っても、聞こえの問題のために話の内容がわかりません。また、たとえば病院の診察を受ける時にも、医師とのコミュニケーションをスムーズに行なうのは困難なことがあります。こんなときに要約筆記者と呼ばれる人が同行して、話の内容を聞きながら、要約して書き取っていきます。そうすることで、聴覚障害のある方が話の内容を理解し、スムーズなコミュニケーションをとることができます。こうした文字による通訳が要約筆記です。

要約筆記者は、話を聞きながら要約し、その場で書き取っていくという複雑な作業をしています。その作業を行なうには、さまざまな能力を活用していると考えられます。要約筆記を行なうには、どんな能力が必要なのか、その能力を効果的に使うにはどうしたらよいか、また、その能力を伸ばすにはどうしたらよいか。こうした要約筆記通訳の技術向上にかかわる諸問題を研究しています。

2 コミュニケーション技術向上支援の研究

聴覚障害者の方々が社会生活をするなかで、耳が聞こえにくいことから、さまざまな困難を経験するといわれています。しかし、場合によっては、コミュニケーション技術を用いることで、そうした困難を減らすことができることがあります。聴覚障害のある方々がそうしたコミュニケーション技術を向上させていくことができるような支援プログラムを開発しています。

●期待される成果と応用

要約筆記の技術やコミュニケーション技術向上支援の方法が確立し普及することで、聴覚障害のある方々の福祉の向上につなげていけると考えられます。

●想定される連携先

地方自治体、社会福祉団体、障害者団体、障害者支援団体など